草原のチョウを探る

熊本大学教育学部附属小学校 6年 竹内 満寿美

1 研究の目的

私は小さいときから蝶が大好きで、今も家族と一緒に昆虫採集をしている。図鑑を見ていて、九州で狭い部分にしか生息していない蝶を見つけ、ぜひその蝶を確認したいと思い、今回家族の協力を得て、阿蘇の自然と観生息環境を主に観察してみた。

2 研究の方法

- (1) 阿蘇市波野駅周辺、約100km²を1km²に区切り、環境と生息している蝶を採集・観察する。
- (2) 草原・畑・杉林・自然林に分けて種類と個体数をチェックする。
- (3) 特に草原のチョウに視点を当て、各地点に生息するチョウのうち、ヒメシロチョウ・ジャノメチョウ・ゴマシジミの3種及びその食草を観察する。
- (4) 夏休み中8月7日・8日・11日・16日・18日の5日間をかけてチェックを行った。

3 調査の範囲

阿蘇市波野駅周辺の、1km²ごとに区切った53か所をチェック。そのうち、採集に適した草原22か所で採集・観察を行った。調査の範囲は阿蘇市と高森町の一部。

草原が少なく、調査に適さない所が多い。杉の植林も多く、土砂崩れの爪痕が残っている。

4 研究の結果

- (1) それぞれの食草がある所で、ヒメシロチョウとジャノメチョウは確認できたが、ゴマシジミは、食草のワレモコウがたくさん生えている地点でも1頭も見ることができなかった。
- (2) 食草のない所では、それらを食べて育つチョウは、1頭も確認できなかった。
- (3) 8/7~8/18間の5回（7日・8日・11日・16日・18日）同じ地域を調査したが、8/7・8/8は確認できず、8月中旬になって初めてヒメシロチョウがみられた。
- (4) ヒメシロチョウの採集頭数をオス・メスで比べると、オスがメスに比べて2倍以上になった。
- (5) ジャノメチョウは、図には表さなかったが、5回の調査で、毎回多数みられた。

5 考察

今回、九州で見られる3種の草原のチョウに視点を当てて調べてみた。ヒメシロチョウ・ジャノメチョウは多く見られ、採集もできた。しかし、ゴマシジミは発生時期が違うのか、1頭も見ることができなかった。また、食草とチョウの関係は、そのチョウの食草が生えていることが必須だが、ゴマシジミのように、食草はあっても、他の条件がそろわないと全然見られないことがあると考えられる。今回の調査では、その条件はわからなかった。広い草原の中のワレモコウは、ススキに埋もれて花芽をつけていないものが多く、ゴマシジミが産卵できないことも考えられる。このことから、草原に生息するチョウは、草原が正しい形で維持されていないと生息するのが難しいのかもしれない。

ヒメシロチョウは、8月上旬には、全く見られなかったが、8月11日からみつけることができた。オスの発生が多いのは発生時期をそろえることで、強いオスが子孫を残せるようにしているのではないか。発生時期は場所が違っていてもほぼ同じになっている事実から考えた。オス・メスの個体数が違うことや、メスが遅れて発生するのは、強い子孫を残すために都合がよいと言われていることが、この調査からもわかる。

自然の中の動物は、植物に大きく依存して、深くかかわっている。私たち人間もそんな自然界の中の一員であることを十分に理解し、自然に配慮しつつ生きていかなければならないと思った。